

# 大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

## Outcome report

計画名 Plan	第 25 回世界哲学会議への現地参加と研究発表
氏名 Name	石原諒太
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	文学研究科・思想文化学専攻・博士後期課程 2 年
渡航国 Country	イタリア
渡航日程 Travel schedule	2024 年 7 月 30 日 ~ 2024 年 8 月 26 日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

### 渡航計画の概要 Outline of the travel plan

2024 年 8 月 1 日から 8 日にかけて、イタリアのローマ大学ラ・サピエンツァ (Sapienza Università di Roma) にて第 25 回世界哲学会議が開催された。世界哲学会議 (World Congress of Philosophy) とは、国際哲学会連合 (International Federation of Philosophical Societies) によって運営される哲学の国際会議のことであり、現在は基本的に 5 年に一度のペースで開催されている。この会議は哲学の国際会議としては最大規模のものであり、毎回世界中から何千人もの人々が参加している。本渡航では、第 25 回世界哲学会議に参加し、“Death, Deprivation and Counterfactual Semantics” (「死・剥奪・反事実条件文意味論」) という題目の口頭発表を行うことを目的とした。

### 成果 Outcome

発表時間は質疑応答も含めて 20 分と非常に短くはあったが、発表では報告者の研究について数多くの質問をもらうことができた。質問の中には、報告者が自明視していた前提を疑うものもあり、どの質問も非常に有益であった。20 分の発表が終わったあとには参加者と個人的に意見交換を行い、報告者の研究テーマである死の悪さについてさらに議論を深めることができた。

また、8 日間にわたり開催される世界哲学会議では、一日あたり 100 件を超える研究発表が行われ、テーマも非常に多様であった。これらの発表を聞くことで、哲学について最新の知見が得られた。とりわけ興味深かったのは、“Deathbots” (大まかに言えば、すでに亡くなった人の言動や性格を模倣するチャットボット) についての発表である。発表では、(i) 死者、(ii) 遺族、(iii) 社会という三つの観点から、“Deathbots” の倫理について様々な提案が行われていた。この発表は、申請者自身の研究とも密接にかかわるものであり、申請者の今後の研究にとって非常に有意義であった。このほかにも「愛の哲学」というワークショップでは、“Relationship Anarchy” という立場が擁護されていた。詳細は省くが、この立場は日本ではほとんど紹介されていないものであり、非常に興味深い発表であった。

さらに、国際会議の開催中には、哲学の研究を行う他国の大学院生と交流を行うことができた。専門分野は異なっていたものの、他国での研究状況や大学院での指導方法などを知ることができ、非常に有益だったと感じている。

最後に、今回の国際会議では、報告者がより英語を話すことができると感じる場面 (たとえば質疑応答など) が多々あった。今回の渡航の一つの成果は、英語を話す能力を向上させる必要性を身に染みて実感で

きたことである。

## **今後の展望 Prospects for the future**

今回の発表で参加者からもらった質問や議論を踏まえつつ、自身の研究をブラッシュアップし、近日中に査読付きの国際誌に投稿する予定である。また、今後も積極的に海外で研究発表を行うことで、報告者の研究を国際的に発信していきたいと考えている。さらに、世界哲学会議では“Deathbots”などの興味深いトピックに出会うことができた。これらのトピックについてさらに知見を深め、自身の研究との接点を探っていきたい。

最後に、今回の渡航をご支援いただいた大学院教育支援機構（DoGS）に心より感謝申し上げます。